

平成25年度事業実績

1. 事業1「日本手話による教養大学」

日本社会事業大学文京キャンパス（一部清瀬キャンパス）にて、ろう者講師が担当し手話で教授する「手話による教養大学」を開催した。例年通り、本学の学生のみならず、単位互換制度を利用して他大学の学生や、聴講生として一般の方にも公開した。

年間開講予定科目 20 のうち、上半期は 11 科目開講し、受講生は延べ 118 名であった。下半期は 9 科目開講し、受講生は延べ 146 名であった。この数字には、支援学生等を含む本学の健聴学生も含まれる。今年、学部生としてインテグレーションから 2 名、また初めてろう学校から 1 名入学し、3 名とも積極的に文京キャンパスに通った。夏季集中の英語は全員が履修した。特にろう学校からの学生にとっては母語で教育を受けられる非常に大きな意義のある講座となった。日本手話を母語とするろう学校出身者には、いかにこの講座が有効であるか本人・支援者ともに実感した。

2013 年度「手話による教養大学」受講者数

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	計
	英語 B 9 (富田)	英語 B 11 (佐野)	初級アメリカ手話 A (森並)	初級アメリカ手話 B (谷口)	中級アメリカ手話 (谷口)	上級アメリカ手話 (谷口)	人間 X IV (佐野)	人間 X V (常境)	人間 X VI (常境)	人間 X VII (中野)	人間 X VIII (森社)	科学 X I (末森)	科学 X II (末森)	科学 X III (木下)	科学 X IV (木下)	社会 X II (田門)	社会 X III (田門)	社会 X IV (森社)	社会 X V (吉川)	社会福祉特講 II (高山)	
	文 前	文 後	清 前	文 前	文 後	文 前	文 前	文 前	文 後	文 前	文 後	文 前	文 後	清 後	清 後	文 前	文 後	文 前	清 後	文 前	
聴講生及び特別聴講生	0	1	2	15	6	3	3	1	0	3	7	2	2	0	0	1	0	1	0	13	60
本学在学学生	3	3	14	0	0	0	0	0	0	0	2	0	6	57	46	1	2	0	69	1	204
合計	3	4	16	15	6	3	3	1	0	3	9	2	8	57	46	2	2	1	69	14	264

2. 事業2「授業等における情報保障者の配置」(学内学生支援)

(1) 入試への「日本手話」の導入～全国から注目された入試改革の達成

ろう・難聴の高校生、特にろう学校の生徒の大学進学率は極めて低く（毎年 20% 以下）、大学が門戸を開くことが課題であった。今年度前半は入試の改革と広報・実施準備に力を入れた。従来の面接試験における手話通訳・パソコンテイク等の配慮に加えて、入試本体に「日本手話」を含めることを 7 月に教授会議決した。これはビデオ画像で日本手話の表現を見せて、それについての問いに答えさせるものである。この取組は朝日新聞・福祉新聞・NHK・目で聴くテレビなどで報道された。

2 月 2 日後期日程の入試には「日本手話」を入試科目に含む初の聴覚障害者入試が行われ、

決定が夏になったにも関わらず、3名の受験者があり1名が合格した。日本手話を母語とし、日本語を第二言語とする受験生の不利益が緩和された。また入学後の支援についてもより多くの人が関心を持ってくれたようで、新聞報道の翌日には近隣の方々からプロジェクト室に支援の申し出や問い合わせが多く寄せられた。

(2) 社会福祉学部授業における情報保障者の提供

日本社会事業大学在籍の聴覚障害学生に対するノートテイク、PC テイク、手話通訳等の情報保障を行った。対象学生は、学部1年生3名、2～4年生各1名、大学院博士後期課程1名、大学院研究生に1名、通信教育課精神保健福祉士養成課程1名、通信教育課社会福祉士養成課程3名、社会福祉主事に2名、計15名であり、昨年から倍増したが、支援を行うにあたっては、対象学生と入念なミーティングを行い、各学生の状況及び各授業の教育目的に沿った支援を行うよう心掛けた。そのため、一部は外部の通訳者を活用した。学生支援者もかつてなかった約90名もの学生が協力の登録をした。

(3) 精神保健福祉士養成課程・社会福祉士養成課程スクーリングでの通訳者の提供

通信課程については昨年に比べ利用者が急増したが、6月・7月・8月・9月・2月に行われたスクーリングでは高度な内容を考慮し、国立障害者リハビリテーションセンター学院手話通訳学科の卒業生を中心に通訳者を揃えた。

2013年度 情報保障者配置実績(延べ時間)

事業名		学生支援者		外部支援者		計
		PCテイク	NT	手話通訳	PCテイク	
教養大学	清瀬科目			145.00		145.00
学内支援	学部・大学院	1503.00	360.00	1597.00	1227.00	4687.00
	通信教育科	12.00		85.00	31.00	128.00
	オープンキャンパス等	17.00		57.50		74.50
	その他(レポート講座等)			32.00	40.00	72.00
支援者養成					62.00	62.00
計		1532.00	360.00	1916.50	1360.00	5168.50

※ただし、本学の支援実績データベース上の数字であるので、多少の誤差あり。(経理処理のプロセスの違いにより、このデータベースに記載しないものもある。)

(4) 教員向けリーフレット・支援者向けリーフレットの作成

教員のために授業の工夫例等のリーフレットを作成・配布した。教員がアクセシブルな授業を行うよう自身で工夫・調整していくことが、支援の質を高めるために必要である。スタッフが増えたこともあり教員との連携体制を構築することに特に力をいれたため、多くの教員がプロジェクト室と積極的に連携を図るようになった。また支援者向けにもリーフレットを作成し、学内外の関係者に配布したり、特別支援学校・ろう学校に送付した。

(5) 支援紹介のDVD作成

ろう学校出身の学生などに学内支援を紹介させる動画を作成してDVDにして、全国のろう学校に送るようにした。また日本社会事業大学聴覚障害者大学教育支援プロジェクトのホームページからも見られるようにした。ホームページに文字で示してもなかなかろう者は読まない

こと、読んでも理解が難しいことがわかったため動画で提供することにした。学内支援の様子や、手話入試があることなどを手話で伝えることができるようになった。

(6) 情報保障者養成の実施

今年度は近隣の一般住民に広く広報をし、聴覚障害学生に対する支援者を拡大した。大学として獲得した文科省産業連携GPの予算でも情報保障の専門家を学内に招いての講習会を開催したが、その際には学内外の広報をプロジェクト室で積極的に行った。全体として、テイクのスキルを身に付けようとする初心者がトレーニングを始められるチャンスを毎月1度は作った。また学内の学生はふらりとプロジェクト室を訪れても、テイクの練習ができるような雰囲気と体制をつくることができた。日常的に小さな練習会を行うことができたことは、テイクのスキル向上につながった。3年前数名から始めたパソコンテイクは現在90名の登録者があり、そのうち20名以上が常時活躍している。

外部の講師を招いてのパソコンテイク研修会は、4月27日(日)に7時間、6月3日(火)・5日(木)・7日(土)の3日間で合計6時間、9月5日(金)に3時間、10月1日(水)・8日(水)・15日(水)・22日(水)・29日(水)の5日間で合計10時間、2月3日(火)に3時間、3月3日(火)・17日(火)・24日(火)の3日間で合計9時間実施した。

(7) オープンキャンパス「ろう・難聴スペシャルデー」の開催

「日本手話による教養大学」の講師2名をゲストとして呼び、8月24日(日)、入試改革の説明会を兼ねて聴覚障害をもつ受験生のためのオープンキャンパスを清瀬キャンパスで開催した。手話通訳・パソコンテイクつきの進学相談や、支援者および聴覚障害の在 student と高校生やその保護者たちとの交流会も開催した。またろう文化を紹介した書籍やDVDの紹介コーナーも設けた。この企画は事前に朝日新聞に報道され、「目で聴くテレビ」でも報道された。聴覚障害の学生・保護者ら約10名に一日キャンパスの中で過ごしてもらい居心地のよさを体験してもらった。在学中の聴覚障害学生も参加し、高校生へのアドバイスや、大学紹介をしてくれた。

(8) オープンキャンパスでの支援実施

大学で毎年実施するオープンキャンパスでも、来場者の希望するプログラムに手話通訳・PC通訳を配置した。各回数名の来校者がいた。プロジェクト室のスタッフは必ず出勤し、聴覚障害をもつ高校生の急な参加にも対応できるようにした。

(9) 当事者・支援者・スタッフの交流会

9月13日(土)、当事者・支援者・プロジェクト室のスタッフが集まり、前期の反省と後期からの抱負を語り合い、よりよい支援を目指した。さまざまな言語的背景をもつ当事者の学生に、それぞれのニーズがあることをお互いに理解してもらうことができた。

また、3月8日(土)には外部の登録支援者を対象に研修会を開催した。登録支援者の数も増えてきたが、支援者同士が意見交換をしたり、より良い支援のための研修を同時に受ける機会はこれまでなかったため、講師2名の講演と、本学を含む福祉系大学での講義通訳をするにあたって共有しておくべき情報などについて意見を出してもらい、集計した。これをマニュアル作成につなげたいと考えている。

(10) ろう・難聴大学生のためのレポートスキルアップ講座

2013年度は本学にも3名聴覚障害学生が入学し、大学生活を送る中でレポートの書き方等についてもっと勉強したいという要望があった。また、「ろう・難聴高校生の学習塾」の卒業生も増え、他大学の学生からも同様の要望があった。そのため、聴覚障害を持つ大学生を対象に、レポートスキルアップ講座を2日間開講した。講師4名による講義で、2日間の集中講座を行った。本学の聴覚障害学生は全員申込みをした他、他大学の学生も含めて2日で延べ14名が参加した。

(11) 日本手話講座の開催

2013年度も日本手話のスキルアップのために3日間の集中講座を開講した。講師3名による集中講座で、本学の学生3名を含めて、3日間で延べ24名が参加した。「ろう・難聴高校生の学習塾」に参加している高校生も2名参加した。高校生の時から、日本手話を学ぶ貴重な機会となった。

(12) 国家試験対策講座の開催

社会福祉士・精神保健福祉士国家試験のための対策講座を1月4日(土)・5日(日)の2日間開講した。講師2名による手話による講座で、2日間で延べ10名が参加した。

3. 事業3「ろう・難聴高校生の学習塾」開講

聴覚障害を持つ高校生を対象に、ろう者の講師が手話で教えるクラス、聴者の講師が情報保障付きで教えるクラスの両方を用意した塾を開講した。5月～7月に1学期を、9月～11月に2学期を、1月～3月に3学期を開講した他、8月と12月と3月に集中講座を開講した。昨年度に続き、中学生も3年生以上は受け入れた。習熟レベルやコミュニケーション方法に配慮したクラス編制を行い、多様な聴覚障害高校生のニーズに対応するよう努めた。

1学期(5月～7月)には15名が参加した。8月には3日間の夏期集中講座を開講した。夏期集中講座には14名が参加した。2学期(9月～11月)には18名が参加した。昨年度までは推薦入試で合格し進学する受講生が多かったが、今年度は一般入試で受験する受講生も多く、高校受験をする中学3年生も多かったため、冬期集中講座も12月に開講した。冬期集中講座には受験生を中心に10名が参加した。3学期(1月～3月)には13名が参加した。3月には春期集中講座も開講した。春期集中講座には9名が参加した。

- 1学期：5月10日(金)～7月5日(金) 毎週金曜。9週。

	ろう者講師 手話クラス		聴者講師 情報保障付きクラス		
18:00-19:30	英語基礎	数学受験	英語受験	国語標準	数学標準
19:40-21:10	英語受験	数学基礎	国語受験	英語標準	数学基礎

- 夏期講習：8月25日（日）・26日（月）・27日（火） 3日間。

		ろう者講師 手話クラス			聴者講師 情報保障付きクラス		
25日（日）	17:00-19:00	英語基礎	数学受験	国語受験	英語標準		
	19:00-21:00	数学基礎	英語受験		国語標準	数学基礎	
26日（月）	17:00-19:00	数学基礎	英語受験		英語標準	数学基礎	
	19:00-21:00	英語基礎	数学受験	数学基礎	国語標準		
27日（火）	17:00-19:00	英語基礎	数学受験	国語受験	国語標準		
	19:00-21:00	数学基礎	英語標準	英語受験	英語標準	数学基礎	

- 2学期：9月27日（金）～11月15日（金）毎週金曜。8週。

		ろう者講師 手話クラス			聴者講師 情報保障付きクラス		
18:00-19:30	英語受験	数学基礎		国語受験	英語標準	数学基礎	
19:40-21:10	数学受験	英語基礎	国語受験	英語受験	国語標準	数学標準	

- 冬期講習：12月27日（金）・28日（土）・29日（日） 3日間。

		ろう者講師 手話クラス			聴者講師 情報保障付きクラス		
27日（金）	13:30-15:30	英語受験	数学基礎		英語基礎		
	15:30-17:30	国語標準			数学基礎	国語受験	
28日（土）	13:30-15:30	英語受験	数学標準		英語基礎	国語基礎	
	15:30-17:30	国語標準	数学基礎		英語標準	国語受験	
29日（日）	13:30-15:30	英語受験	数学標準		国語標準		
	15:30-17:30	国語標準	数学基礎		国語受験		

- 3学期：1月17日（金）～3月7日（金）毎週金曜。7週。（1月31日をのぞく）

		ろう者講師 手話クラス			聴者講師 情報保障付きクラス		
18:00-19:30	数学基礎	英語標準	数学受験	国語基礎	数学基礎	英語標準	
19:40-21:10	英語基礎	数学受験		英語基礎	数学標準	国語標準	

- 春期講習：3月27日（木）・28日（金）・29日（土）・30日（日） 4日間。

		ろう者講師 手話クラス			聴者講師 情報保障付きクラス		
27日（木）	13:00-15:00	英語基礎	英語標準	数学標準	国語標準	数学基礎	
	15:00-17:00	数学基礎	国語基礎	数学基礎	国語基礎	数学標準	
28日（金）	13:00-15:00	英語基礎	英語標準		英語基礎	数学基礎	国語標準
	15:00-17:00	数学基礎	国語基礎		国語基礎	数学標準	国語基礎
29日（土）	13:00-15:00	英語基礎	英語標準		英語基礎	数学基礎	国語標準
	15:00-17:00	数学基礎	国語基礎		国語基礎	数学標準	国語基礎
30日（日）	13:00-15:00	英語基礎	数学基礎		英語基礎	国語基礎	国語標準
	15:00-17:00	数学基礎	数学標準		国語基礎	英語標準	国語標準

昨年度に引き続き、1コマ90分とし、国語（現代文・小論文）・数学・英語の授業を開講した。その結果、1日に受講できる科目は2科目となったが、より丁寧な指導が可能になった。また、2013年度は、中学3年生も広く受け入れ、高校進学のための指導も行った。大学進学希望の受講生と高校進学希望の受講生からの要望で、冬期講習も開催した。大学進学希望の受験生は8名で、そのうち7名が大学に合格し、進学した。1名は専攻科に進学した。今年度も受験生に1年生から学習塾に参加している受講生が3名おり、学習塾での指導の成果が出ていると思われる。

また、高校進学希望の中学生4名も、全員高校に合格した。2名はろう学校、2名は普通高校に進学した。

卒業生の進学先大学一覧は以下の通りである。

2013年度「ろう・難聴高校生の学習塾」卒業生進学先大学一覧

進学先	人数	出身高校名
群馬大学	1	坂戸ろう学校
恵泉女学園大学	1	中央ろう学校
淑徳大学	1	中央ろう学校
筑波技術大学	2	葛飾ろう学校・中央ろう学校
武蔵野大学	1	葛飾ろう学校
和光大学	1	町田総合高校

昨年度に引き続き、中学生からの問い合わせが増えている。昨年度までは中学生は基礎クラスで指導を行ってきたが、高校生よりもレベルが高い中学生の受講生もおり、学習レベル・年齢が多様化している。中学生は手話ができない受講生が多く、レベルと希望科目と情報保障の種類などを考慮してクラス分けをすることが難しくなることが予想され、課題の一つとなろう。一方、中学生の場合は保護者との連絡も密になり、早い段階で本学の情報保障に関心を持ってもらっている。進学先として考慮している保護者・受講生も少なくない。

コミュニケーション方法の多様化は高校生についても課題となりうる。手話ができない受講生のレベルが様々であるため、PCテイク付の授業を全員に用意することが今後難しくなる可能性もある。

このような課題もあるが、一般中・高校の生徒の中には、ろう者の講師やろう学校の生徒とのコミュニケーションのために手話を少しずつ覚える生徒も見受けられている。学内支援事業で開催した日本手話講座に参加した受講生も2名いる。学習の場であるだけでなく、交流の場としても、「ろう・難聴高校生の学習塾」は機能しており、ひいては大学入学前に支援について学べる、準備ができるという結果にもつながっている。

総括

2013年度の最も大きな成果は、入試への「日本手話」の導入である。このことは、日本手話を母語とするろう者の受験生の言語的不利益を緩和し、大学進学を促進すると同時に、手話の言語権の認知に大きく貢献したとして、多くの当事者やマスコミから評価された。また障害者差別解消法の成立とあいまって、今まで日の当たらなかった高等教育での聴覚障害者への「配慮」の一つのあり方として注目された。従来の面接試験における手話通訳、パソコンテイクに加えて、一般入試への日本手話能力を測る試験の導入は、多様な聴覚障害者に対応できる入試体制が整ったことを意味する。

また支援についても、対象の学生が過去最高だった昨年7名から、さらに倍増し、15名とな

ったが、丁寧に対応した。通信を含む全校学生 2,750 名前後、また学部生・大学院生 1,000 名の大学としては極めて多数の聴覚障害の学生が在籍していることになる。

プロジェクトを実施していく中で、支援学生の量と質両方での顕著な向上、各部署の障害学生支援担当者への知識・支援ノウハウの浸透、教員の授業の工夫、教職員からのアドバイス依頼の増加が見られるなど、間接的な効果も大きかった。また、学外に対しても、「日本手話による教養大学」は他大学の学生にメリットを提供しているし、また聴覚障害学生支援を外部から申し出てくださる地域の方、あるいはボランティアセンターの方々との連携もできてきたことは、助成事業としての社会的責任に込んでいることを示す。大学全体として変革・発展のプランを作成中であるが、その中でも本プロジェクトは障害学生支援のモデル的役割を果たしている。

また高校生の塾も年々受講生が増加していて、大学進学率の増加につながることを期待される。